



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3556号 2017.3.14 発行

「人らしさ」重要遺伝子発見 金沢大などグループ 中日新聞 2017年3月14日



服部剛志准教授（左）堀修教授（右）

脳障害研究へ応用期待

脳の表面部分にあたり、認知機能、記憶、社会性といった「人間らしさ」に関わる大脳皮質。その発達に重要な遺伝子を、金沢大などの研究グループが発見した。自閉症をはじめとする脳障害の原因究明や診断、治療法の開発につながると期待される。（日下部弘太）

発見したのは医学系の服部剛志（つよし）准教授（神経解剖学）と堀修教授（同）ら。大脳皮質の中で「グリア細胞」の発達に着目した。

脳の細胞は神経細胞とグリア細胞に大きく分けられる。神経細胞は情報をやりとりする機能があり、古くから注目されてきた。グリア細胞は近年研究が進み、神経細胞に栄養を供給したり、保護したりするほか、神経回路の形成に関わっているなど重要な役割が分かってきたという。

服部准教授らはマウスで脳が発達する時期のグリア細胞を調べ「CD38」という遺伝子が多く存在することを発見。この遺伝子がないマウスは、グリア細胞の発達に遅れが起きることも突き止めた。今後、グリア細胞の発達の遅れがどのような影響をもたらすかなどの研究を進める。服部准教授らによると、グリア細胞は脳細胞の半分以上を占める。人間の脳はサルと比べてはるかにグリア細胞の割合が多く、高度な脳機能にはグリア細胞が重要だと考えられる。成果は十一日、米国のグリア細胞研究専門誌のオンライン版に掲載された。

麩の焼き菓子「ラフク」販路拡大狙う 岐阜「ふくろうの家」

中日新聞 2017年3月14日

焼き麩に抹茶味のバターなどを染み込ませる通所者ら＝岐阜市六条南で

岐阜市六条南の障害者通所授産施設「あしたの会ふくろうの家」が、高級感を売りにしたお麩（ふ）の焼き菓子「ガトーラフク」の種類を増やし、販路拡大に取り組んでいる。商品価値を高めて通所者の所得アップにつなげ、「障害者が地域で自活する後押しをしたい」と願う。

黒を基調とする落ち着いた雰囲気のパッケージ。中には、焼き麩にバターと砂糖を塗って焼き上げた菓子がぎっしり。さくっとかじると、口の中でふわりと溶ける。商品名は、スライスしたフランスパンなどに同様の工程を施して作る焼き菓子「ラスク」をもじって付けた。

神戸町の「森製麩所」と連携し、二〇一五年から販売を始め



た。施設に通う知的や精神、身体に障害のある二十九人のうち、ラフク班は十二人。県産の小麦粉で作った麩に、一つ一つ手作業でバターなどを擦り込み、味を染み込ませる。初めはプレーンとチョコ、黒糖の三種類を発売。昨年六月からは抹茶味も加わった。

授産施設が手がける商品は、手作り感あふれる簡易包装のことが多い。だが、施設長の村井稔さん（55）は「洗練された商品を作り、関東や中部、関西で幅広く売れるものになりたい」と考えていた。

包装の図案はデザイナーに依頼した。安八町のパティシエ福島由佳さん（39）に月六回指導に来てもらい、味にもこだわる。一時は東京の百貨店の店頭に並び、航空会社のお歳暮ギフトのカタログに掲載されたこともある。

ただ、現在はふくろうの家やオアシス21（名古屋市）の県アンテナショップ、JR岐阜駅隣接のアクティブG内の喫茶店など県内や近隣で販売するにとどまる。販路の拡大に向け、百貨店などへ商談にも出かけている。村井さんは「いつか、岐阜の名産品として定着させたい。安定して販売できるようになれば障害者の給与水準も上げられる。彼らが地域で生活する幅も広がるはず」と夢を描く。一袋四百八十円（税込み）。

（兼村優希）

大阪）雇用、癒やしの場……社会福祉法人が乗馬クラブ 中川竜児

朝日新聞 2017年3月14日

乗馬クラブ「ハーモニーファーム野のはな」の屋内馬場＝貝塚市



貝塚市中心部から車で約20分。広大な丘陵地の一角に、西日本最大級の屋内馬



場を備えた乗馬クラブがオープンした。運営するのは阪南市の社会福祉法人「野のはな」。知的障害のある人らが馬の世話をしたり、併設のレストランで働いたりしている。

サラブレッド、背の低いミニチュアホース。乗馬クラブには計15頭の馬がいる。屋内馬場は縦54メートル・横30メートルの広さで、どんな天候でも乗馬が楽しめる。

現在、会員は府内外の約40人。取材に訪れたのは平日だったが、数人の女性客がリズムよく歩く馬に乗って馬場

を周回していた。

ありがとうの花みんなに 障害ある飯田の前田さんが絵本

中日新聞 2017年3月14日

感謝の気持ちを伝える大切さを表現した絵本「ありがとうの花」を完成させた前田さん＝飯田市のホテルで

重い知的障害と自閉症があり、障害者支援施設「明星学園」（飯田市駄科）に入所している前田啓子さん（27）が、絵本「ありがとうの花」を出版した。感謝の気持ちを伝える大切さを、豊かな色合いの絵や文で表現した。

絵本はA5判、十七ページ。丘の上に咲く「ありがとうの花」は、



「大事な時」にみんなが採りに行く花。うまく感謝を伝える自信がなくても、勇気を持って「ありがとう」と言って花を渡せば、相手は笑顔になる。そして自分も幸せに一。そんな内容を、パソコンを使い、色とりどりの動物を登場させて表現し、約八カ月かけて完成させた。

施設職員によると、作品は、多くの人に支えられ、気持ちがすさんだ日々を乗り越えた前田さんの経験が基になっているという。

約十年前に同施設に入所。職員の話では「当初、嫌われたくない、期待に応えたい」という気持ちが強かったせいか、思い通りにならないことがあると、周りの物を投げたりすることもあった」という。

宮下智園長（62）らは「嫌なことを頑張らなくていいよ」と伝え続けた。少しずつ落ち着いてきたころ、職員の支援で絵本を描き始めた。家族旅行を題材にした一冊目は二〇一五年に完成。「ありがとうの花」は、そうした生活の中で感じた職員や家族への思いを表現したようだ。

十二日、少し遅めの前田さんの成人式と出版パーティーが飯田市内であり、両親や施設職員らが祝った。職員らに感謝を伝え、両親から花束を受け取った前田さんは「うれしい！」ととびきりの笑顔。父親の勝さん（67）は「これからも楽しいことを一生懸命やってほしい」と願っていた。

絵本は三百円。明星学園で購入できる。（問）明星学園＝0265（26）9456（牧野良実）

中野の2区立保育所民営化 発達障害児の保護者ら陳情「仮設園は区営で」



東京新聞 2017年3月14日

民営化が計画されている大和保育園＝中野区で

中野区が二〇一九年度に予定している二つの区立保育所の民営化に対し、発達障害のある園児の保護者らが「子どもたちへの精神的負担が大きい」として、運営を民間事業者任せの時期を一年先延ばしするよう求める陳情を、区議会へ提出した。十四日の子ども文教委員会で審査される。（柏崎智子）

民営化されるのは、「大和保育園」「南台保育園」

で、事業者は今月中に決まる。区の計画では、一七年度中に区がそれぞれの近隣都有地に園舎を仮設し、一八年度は仮設園で民間事業者が運営。一九年度から、現在の場所に事業者が建て替えた新園舎で完全民営化する。

保護者らが問題にするのは、運営の民営化のタイミング。これまでの同区の民営化では、新園舎からだったのが、今回は仮設時から民間委託する。子どもたちにとっては園舎と保育士が一度に変わることになる。

大和保育園発達障がい児保護者の会「希望の子」の陳情では、仮設時は従来通り区で運営し、慣れた保育士のもとで環境の変化を抑えるよう求めている。代表の斎藤歩さん（39）によると、発達障害児には新しいものへの恐れや不安が大きく、対応を誤るとパニックや発熱を引き起こすという。

これに対し、区は保育士不足などを理由に、仮設時の区営は難しいとしている。公立保育所の民営化を進める前提で〇一年度から一一年度まで保育士を採用しなかった。また、毎年約一園分の保育士が定年退職し、「仮設園も民営化しないと、公立園全体の運営が難しい」と話す。「事業者の保育士との引き継ぎ期間を従来より長くした。区が指導できる仮設時に、事業者に入ってもらった方が円滑に移行できると判断した」としている。

障害者スノーボードW杯 バンクドスラロームで成田が優勝

NHK ニュース 2017年3月13日

来年、韓国で開かれるピョンチャンパラリンピックのテスト大会となっている、障害者スノーボードワールドカップ、男子バンクドスラロームの足に障害があるクラスで、23歳の成田緑夢選手が優勝しました。

大会はピョンチャンパラリンピックの会場で10日から始まり、13日はコース上に立てられた旗を決められたとおりに通過してゴールまでのタイムを競う、バンクドスラロームが行われました。

この種目は各選手が3回滑ったうちの最もよいタイムで争い、成田選手は2回目に41秒62をマークして優勝しました。

成田選手は10日のスノーボードクロスで3位となったのに続き、今大会2回目の表彰台です。

成田選手は、いずれもトリノオリンピックに出場した成田童夢さんと今井メロさんを兄と姉に持ち、19歳の時にトランポリンの練習中に左足に大けがをした影響で、膝から下に障害があります。

このほかの日本勢は、市川貴仁選手が10位、藤嶋大輔選手が16位でした。

スペシャルオリンピックス日本選手団がオーストリアへ

by 佐々木 延江 パラフォト 2017年3月14日

スペシャルオリンピックス冬季世界大会 日本代表選手団



2017スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア出場に向け出発する日本代表の結団式・壮行会が3月13日、羽田空港で行われた。

細川佳代子名誉会長から大和田誠団長へ団旗が渡る

障害のある人の国際大会は、パラリンピック、聴覚障害のデフリンピックなどが有名だが、もっとさまざまな大会がある。大会の多くは共通して勝ち負けの明瞭な競技スポーツを目指すのが、スペシャルオリンピックスは、知的発達障害のある人のスポーツで、競う結果の順位を決めるよりも日常のスポーツに価値を置いている。

また、パラリンピックがイギリスやドイツなどオリンピック同様にヨーロッパ生まれなのに対し、スペシャル



オリンピックスは、アメリカの故ケネディ大統領の家族のために始めた、アメリカからのスポーツで、かつてアメリカでは障害者のスポーツといえばスペシャルオリンピックスというイメージを持っている人が多かった。

大会はオーストリア共和国で17日から開幕し、24日に閉会式が行われるまで8日間行われる。107の国と地域から2700人のアスリートが参加、1100人のコーチ、3000人のボランティアが参加し、ウィーン、グラーツ、ローアモース、ラムサウなどの会場で8競技、1デモンストレーションが開催される。

結団式・壮行会の会場には、高円宮妃、スポーツ庁などの出席のほか、冬季オリンピック・フィギュアスケートの安藤美姫やサッカーの北澤豪など冬季オリンピックやサッカーワールドカップで活躍した選手も参加し、エールを送った。

日本選手団（団長・大和田誠）は、総勢81名（アスリート54名・スタッフ27名）で7競技に参加。この大会のために、2016年からスタッフによる会議や、長野、新潟、北海道での合宿が重ねられ、この日を迎えた。

障害のある人の権利や状況について考える機会でもある

在日オーストリア大使フーベルト・ハイッス氏は挨拶の言葉をつぎのように述べ、日本人とオーストラリアのウィンタースポーツの交流が深く、スキーが長く楽しめるスポーツであることを伝えた。

「この大会は、オリンピック精神に基づいて競技を行うだけでなく、障害のある人の権利や状況について考える機会でもある。日本は、冬季オリンピックやウィンタースポーツの会場として数多く選ばれている。冬のスポーツの素晴らしい環境がある。その日本に、100年前にアルペンスキーを伝えたのが、オーストリアのレルヒという人（テオドール・エードラー・フォン・レルヒ）です。

オーストリアと日本の間には30もの姉妹都市がある。その大半がスキーの交流です」

長野パラリンピックのレガシー

壮行会后、食事会の前に写真を撮らせてもらったクロスカントリースキー日本代表。選手の一部、川本麻衣は選手団代表で決意表明をした。浜田翔は「この大会で最も楽しみにしているのは、ワックスを担当してくれるコーチに会うこと」だと話してくれた。競技を通じて知りあった現地在住の協力者が力強いサポートをしてくれるのだ。二人は普段は旭川でヘッドコーチの今野征大氏と共に999ACで活動している。



クロスカントリースキーチーム日本代表

パラリンピックで、知的障害の選手が初めて出場したのは長野大会（1998年）。その練習でも使用された富沢クロスカントリースキーコースが999ACのホームゲレンデとなっている。

長野後、夏のシドニーパラリンピックでの「選手替え玉事件*」を経て、知的障害のクラスがパラリンピックから姿を消したが、旭川では選手が今も練習を続けている。オーストリアでのクロスカントリースキーのレースは17日と18日に行われる。

「駐車禁止除外車標章」を偽造し、取り締まり中に使用 大阪府警が駐車監視員を書類送検 産経新聞 2017年3月14日

障害者用の「駐車禁止除外指定車標章」を偽造して使ったとして、大阪府警は14日、有印公文書偽造・同行使と偽計業務妨害の疑いで、大阪府東大阪市の駐車監視員の男（71）を書類送検したと明らかにした。「駐車料金を浮かせたかった」と容疑を認めている。送検は13日付。

送検容疑は、障害者の親族がいる同僚監視員の男（57）＝同府八尾市＝から標章を借りてカラーコピーした上、1月25日、大阪市北区西天満の府道で、自分の車を路上駐車する際に掲げたなどとしている。

府警によると、男はこの日行われた駐車違反の府内一斉取り締まりに参加した際に偽造標章を使用し、警察官が発見した。

府警は同僚の男も偽計業務妨害帮助（ほうじょ）の疑いで書類送検。2人は昨年1月から、府警から駐車監視員の委託を受けている会社で勤務し、同社は今年1月下旬、2人を解任した。

車いす利用者も安全に札所巡り 参拝ルートの冊子製作 徳島新聞 2017年3月14日

灘さんが作った車いす利用者向けの巡礼冊子



身体障害者の四国霊場巡りを促そうと、四国八十八カ所霊場会の公認先達、灘健二さん（68）＝奈良県王寺町＝が、八十八カ所の車いすで参拝できるルートなどをまとめた冊子を作った。昨年9月から約2カ月間かけて、かかしを乗せた車いすを押しながら身体障害者の目線で各寺を点検した。冊子は希望者に無料で配布し、身障者の巡礼に役立ててもらおう。

冊子はA4判48ページ。大師堂や山門の配置が分かるイラストと、車いすのまま参拝が可能な本堂までのルート、身障者用トイレの有無などを88カ所ごとに網羅した。車いすで宿泊可能な宿の連絡先も掲載している。

10番札所・切幡寺（阿波市）は駐車場からの坂がきつくて車いす利用者に注意を呼び掛けているほか、12番・焼山寺（神山町）では境内の砂利が深く、支援者の必要性を訴えている。

これまで100回以上の結願を果たした灘さんは、石段があつて本堂まで近づけないお遍路さんを何度も見てきた。そこで、各寺に改善を求めながら冊子作りにも生かそうと、昨年9月、車いすを押し回して各寺を回る“啓発巡礼”を始めた。

灘さんは「札所巡りを諦めていた人が、お参りに行こうという気持ちになってもらえれば」と話している。

300部作製し、必要な人には無料で送付する。問い合わせは灘さん＜電090（4284）8701＞。

地域通貨で活性化狙う 省エネや健康増進…鍵握る地元の合意形成



産経新聞 2017年3月13日

ポイントカードを受け取る飲食店の店主（左）＝兵庫県尼崎市

地元の経済の活性化を目的に、特定の区域で使える「地域通貨」の導入が相次いでいる。紙幣などではなくICカードやスマートフォンを活用、商品の購入やサービスの利用によりポイントが付与され、地域での買い物に使えるタイプが目立つ。省エネや健康増進など、地元での課題解決に向けた取り組みが注目されている。

◆イベント参加

北海道苫小牧市の商業施設「イオンモール苫小牧」では昨年11月、カード読み取り機を設置した「タッチスタンド」に市民の列ができた。

6カ所に設けたスタンドを3カ所以上回ると地域で使える「通貨」としてポイントがた

まる。市などが主催するイベントで、施設内を歩いて健康増進につなげてもらうのが狙いだ。初年度は福祉や健康・スポーツなど100以上のイベントを予定している。

苫小牧市が地域通貨事業を始めたのは昨年8月。原則として、加盟店で100円（税別）買い物をすれば1ポイントたまる。1ポイントにつき1円分、加盟店で買い物ができる。

カード発行数は2万7千枚以上。180以上の加盟店の申請があるという。担当者は「休日に札幌市に行って買い物をする人が多いが、地元での消費に結びつけたい」と期待している。

全国で地域通貨の導入を支援するフェリカポケットマーケティング（東京）の納村哲二社長は「地域通貨は、消費を外に逃さず地元経済の活性化に役立つ。『地域に貢献する』意識のつながりが生まれ、コミュニティーも活性化できる」と説明する。

同社が支援したのは約30地域。納村氏は「自治体、商工会や商店街、インフラ企業が参加して多様な方法でポイントを付与できるようにすることや、全体をまとめる強いリーダーシップが欠かせない」と強調する。

通常、消費者に提供するポイントは地元自治体や商工会、企業が負担。特に商工会が負担する場合は「地元経済活性化のため」との理念をいかに理解してもらうか、合意形成が鍵を握るようだ。

◆周知が課題

兵庫県尼崎市は、ICカードを使った地域通貨の導入を支援するフューチャーリンクネットワーク（千葉県）の協力企業が事務局となり、昨年4月に導入した。店によって消費税の扱いなどが異なる場合があるが、100円の購入で原則1ポイント取得、1円分の買い物ができる。

JR塚口駅周辺で実施。夏冬の電力使用量が多い時間帯に加盟店を利用すると、通常の2倍のポイントがもらえる。冬は予想最低気温が2度以下になった平日の午後6～9時が対象になる。

外出により家庭での電力消費を抑えて節電につなげるのが狙いで加盟店は約60店。市からの補助金を活用した。

司法書士の30代女性は「冬は仕事帰りに加盟店で買い物をするだけで得になるので積極的に活用したい」と話す。

ただ、まだ多くの市民に浸透するまでには至っていないという。担当者は「制度の周知に努力したい」と語っている。

◆スマホでも

一方、地域通貨にスマートフォンを活用する自治体も出てきた。

茨城県かすみがうら市は今夏以降、市開催イベントや健康づくり・子育て支援事業に参加すると、スマホの専用アプリを通じてポイントが受け取れる事業を始める。

参加1回当たり数十～数百円分のポイントが付く。市内の飲食店や小売店などで割引分として利用することができ、店舗はポイント分のお金を市から受け取る仕組みになっている。



万博関西弁資料 世耕経産相「私も関西人だが、センス悪い」謝罪して撤回…存在も把握せず

産経新聞 2017年3月14日

世耕弘成経産相

2025年国際博覧会（万博）の大阪誘致を説明するために経産省が作成した最終報告書案の関西弁版に不適切な表現があった問題をめぐり、世耕弘成経済産業相は14日の閣議後記者会見で、「おわびして、撤回させていただきたい」と謝罪した。

世耕氏は関西弁版について、「字がびっしりある資料を関西弁に置き換えただけ。私も関西人だが、特段親しみを持つわけでもなく分か

りやすくもない」と指摘。内容にも問題があり、撤回を指示したと説明した。また、本来なら、もう少し視覚に訴えたり、「関西人のハートをつかむようなキーワード」を考えるべきだったとして、「センスのいい資料とは思えない」と切り捨てた。

一方、世耕氏自身は関西弁版の存在を把握しておらず、幹部もほとんど見ていないとして、有識者会議で配布されたことに「管理上問題があった」と認めた。

関西弁版は万博に興味を持ってもらおうと13日の有識者会議で報告書を提示した際に担当者が配布。万博を「人類共通のゴチャゴチャを解決する方法を提言する場」と表現し、具体的内容に「例えばやな、精神疾患」などと記載していた。

社説：性犯罪厳罰化 泣き寝入りさせぬ社会に 信濃毎日新聞 2017年3月14日

被害者の心に深い傷を残す性犯罪は「魂の殺人」と言われる。泣き寝入りせず、声を上げられる社会にしていく一步にしたい。

性犯罪の処罰規定を大幅に改める刑法改正案を政府が国会に提出した。柱の一つが、強姦（ごうかん）罪などで「親告罪」の規定を削除することだ。起訴するのに被害者の告訴が要らなくなる。

処罰を求めるかどうかの判断を委ねられることは、被害者の精神的な重荷になる。周囲に反対されて告訴できない場合もある。救われる被害者は多いだろう。

一方で、本人の意向に関わらず事件化されることへの懸念もある。加害者とは一切関わりたくないと思う人もいる。望まない場合は立件しないよう求める声が当事者から出ている。

また、告訴の負担はなくなっても、捜査機関の事情聴取や法廷での証言に応じる必要がある。被害者の意思を尊重するとともに、プライバシーの保護に十分配慮することが欠かせない。

相談窓口や警察で心ない対応をされて再び傷つく人もいる。安心して相談できるよう、被害者を支えることは何より重要だ。

改正案は、強姦罪を「強制性交等罪」に改め、女性に限っていた被害者に男性を含めるほか、性交に類似する行為も対象にする。法定刑は現行の懲役3年以上を5年以上に引き上げる。

尊厳を侵す罪の重さを考えれば、強盗罪の懲役5年以上を下回っている刑の不均衡を是正するのは当然だろう。ただ、厳罰化は再犯の防止や性犯罪の抑止に必ずしもつながるわけではない。

精神の不調を抱えた加害者は多く、性犯罪の再犯率は高い。心理療法を取り入れた更生プログラムも刑務所で行われているが、態勢は十分でない。充実を図り、更生の取り組みを強めたい。

専門的な治療を要する場合、刑務所での対応は難しい。刑期の途中で社会に戻って保護観察を受ける「刑の一部執行猶予」制度などにより、治療に専念させることも検討すべきだろう。

このほか改正案は、子どもと同居する親などの「監護者」が支配的な立場を利用して性行為をした場合、暴行や脅迫がなくても処罰する規定を新たに設ける。性的虐待を念頭に置いたものだ。

子どもの性被害は、本人が訴えられなかったりして、表に出にくい。そのことも踏まえ、どう子どもを守るか。刑罰とは別にできることを、あらためて社会で考えていくきっかけにしたい。

